

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

六条地区自治会連合会長・六条公民館長・
六条地区社会福祉協議会会長・青少年育成
福井市民会議六条支部長・六条地区主任児
童委員・六条小学校 PTA 会長・六条小学校
PTA 会計（母親代表）・六条小学校校長・
六条小学校教頭・六条小学校教務

※地域コーディネーター（3名）
六条公民館 館長（1名）
六条地区社会福祉協議会 会長（1名）
六条地区自治会連合会 会長（1名）

(2) 協議会の内容

※開催回数 3回
※開催日程 6月21日（金）
11月27日（水）
2月20日（木）

※協議内容

- ・スクールプラン・教育活動概要について
- ・中学校区教育について
- ・全国学力・学習状況調査について
- ・通学路の安全確保について
- ・本年度の学校評価について

(3) 協議会における成果と課題

これまで、教職員と地域の見守り隊によって下校指導が行われていたが、青少年育成市民会議六条支部と協力して組織を再編し、教職員の負担を軽減した。さらに、社会福祉協議会の協力を得ながら、見守り隊の方々が保険に加入して活動できるようにした。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

児童たちが、福井県の発展に貢献したふるさとの偉人や地元の産業について調べ、体験する活動や、地域のおまつりに自分たちで企画・運営するお店を出店する活動、福祉体験やお年寄りとの交流などを通して、地域への愛着と誇りをもち、主体的に行動することができる児童を育成する。

(2) 活動の実際

①「繭プロジェクト」（5年生）

<六条小学校の校庭にある「桑の木」の説明と学習課題づくり>

地域住民の方から、平成16年の福井豪雨に伴う河川改修工事により、足羽河原にあった「桑の木」が六条小学校の校庭に移植されることになった由来や、桑の葉を餌としている蚕などについて、5年児童が桑の木の下で話を聞いた。



<六条地区ふるさとの偉人「細井順子」氏についての調べ学習>

校区の下六条地区出身者に、バタン機（布を織る機械）の講習会を各地で行い、福井県の繊維産業の発展に貢献した「細井順子」氏がいる。児童は、『ふるさと福井の人々』（福井市教育委員会発行）の副読本やインターネットで細井氏について調べた。



<養蚕農家の見学や絹織物づくりなどについての学習・体験>

福井県内で唯一の養蚕農家（福井市足谷町 杉本英夫氏）を訪れ、蚕に実際に触れたり、杉本氏から蚕の幼虫から絹糸ができるまでの説明や蚕を育てる苦労や工夫、願いなどをお聞きした。また、製糸・織物職人の嘉村亜紀子氏から繭が糸になるまでの過程や羽二重など県ゆかりの織物についてお聞きし実際に繭から糸を巻き取る「座繰り製糸」を体験させていただいた。



②「ふれあいまつりお店プロジェクト」（5・6年生）

<六条地区のふれあいまつりに出店するお店を企画・運営>

六条小学校で開催される六条地区の行事である「ふれあいまつり」において、5・6年生全員で、地域の子どもたちが楽しめるお店を出店しようと、地域の大人たちと一緒に企画段階から取り組んだ。当日も、スーパーボールすくい、ミニスノードームづくり、的あて、おかしつりなどのコーナーを主体的に運営し、地域の子どもたち、小学校の後輩たちはもちろん、保護者や地域の人たちに大変喜ばれ、大きな達成感を感じることができた。



③「やさしい町六条～やさしさとどけ隊～」（4年生）

<お年寄りについて知ろう>

福井市社会福祉協議会職員をゲストティーチャーにお招きして、手首足首の重りやゴーグル等を身につけた高齢者の疑似体験（お掃除、読み書き、白内障・視野狭窄、階段歩行）を実施した。さらに社会福祉協議会の方から、お年寄りとの接し方についてお話を聞き、お年寄りとの関わり方を考えた。



<お年寄りと交流しよう 計画・準備>

地域のお年寄りに喜んでもらうために、自治会型デイホームでお年寄りとの交流会を実施することを企画し、計画、役割分担、遊び道具の準備などを行った。

<お年寄りと交流しよう デイホーム訪問>

実際にデイホームを訪れ、昔遊び（すごろく、将棋、ふくわらい）で交流した。児童は、「お年寄りの方がとても喜んでくださって、自分自身とてもうれしかった。」「わかりやすく大きな声でしゃべるなど、気をくばって交流できた。」などと、貢献できた満足感を感じていた。

（3）地域コーディネーターの活動概要

- ・「繭プロジェクト」では、桑の木の由来等の説明をしていただく地域のゲストティーチャーをコーディネートしていただいた。
- ・「お店プロジェクト」では、地区の青少年育成会の方々と共に、活動場所の提供、子どもたちへの指導助言をお願いした。
- ・「やさしい町六条～やさしさとどけ隊～」では、福井市社会福祉協議会との連絡調整や、活動への指導助言をお願いした。

（4）特に工夫した事項

- ・「繭プロジェクト」では、地域の方や養蚕農家の方、製糸・織物職人の方から直接お話を聞くことにより、児童が実感として理解し、学ぶことができるようにした。また、蚕に触れたり、実際に糸繰りを行うなど、体験活動を充実させた。
- ・「お店プロジェクト」では、「令和になったし、六条だし、お店の名前は頭文字をとってRR（あーるあーる）商店にしよう。楽しいことがあーるあーる商店ということで。」という児童たちが出したアイデア、主体性を尊重した。

- ・「やさしい町六条～やさしさとどけ隊～」では、訪問先を自治会型デイホームにし、お年寄りについてリサーチする際には本やネットのみならず、自分の家族にアンケート調査を実施するなどして、お年寄りをより身近に思えるようにした。

(5) 成果と課題

- 地域コーディネーターを地域のまちづくりの中心人物である公民館長、自治会連合会長、社会福祉協議会長に依頼できたことは、児童が地域で学び、活動する上で大変心強く、充実した活動をする事ができた。
- 日程、場所、活動内容等について、学校と地域コーディネーター、関係機関がしっかりと事前打合せをすることができ、児童は意欲的に充実した活動をする事ができた。
- この事業の取り組みにより、子どもたちが、地域のことをさらによく知り、地域に貢献していることを実感している。そして、自己肯定感や、地域への愛情と誇りを高めている。
- 育てたい児童の姿を、地域コーディネーターと学校が共通理解し、それぞれの指導・支援の役割を担いながら効果的に活動を進めていくことが、今後も求められる。
- 地域での体験活動の時間を確保するために、総合的な学習と道徳を含む各教科・特別活動・学校行事等との教科横断的なカリキュラム・マネジメントをしっかりと行わなければならない。